

ワークショップ1：「私の作業」

完全参加型のワークショップです。県立広島大学の吉川ひろみ先生の考案された「作業ポートフォリオチャート」を活用して、ペアワークでご自身の作業について「いつ・どこで・誰と・どのように」などの視点で振り返りを行います。作業についての視点を深め、クライアントの作業の理解に繋がることを目的としています。なお、「作業ポートフォリオチャート」は吉川先生のホームページで無料ダウンロードが可能です(<https://hiromiosotpb.jimdofree.com/作業科学と作業療法/作業/>)。興味のある方はご覧下さい。

ワークショップ2： 災害と作業療法 ～ちゃんくすの場合～

NPO 法人ちゃんくす

西上忠臣

【はじめに】平成30年7月6日から7日にかけて西日本豪雨災害が普段活動している三原市の地域を襲った。断続した雨と急激な増水により三原市内では8名の方が亡くなった。全員自分では移動がしづらいい、いわゆる「災害要援護者」である。ちゃんくすは、主に不登校、引きこもりや発達障害で悩む若者の活動拠点として活動し、就労支援事業所としてパン屋さんとお弁当屋さんを営んでいる。今回の災害をとおして私たちの活動を振り返り、どのような脅威にさらされても作業療法という活動を継続するためにどのような準備が必要かを会場の皆さんと一緒に考えていきたい。

【災害時のちゃんくすの活動】①被災地への食糧の調達…来所できたメンバーでパンを作り災害後すぐに避難所に届けた。また、障害者雇用で連携している企業や人たちで食料の調達を行った。②通常営業を行った…集まれるメンバーでいつものお客さんにパンやお弁当を作り、いつもの時間を提供した。③利用者とのボランティア活動…いつもは支援される当事者が、自分にも何かができると、支援する側になった。ボランティアセンターが開設された日に被災地での活動を行った。④お子さんの遊び場作り…災害時は社会的に援護が必要な方にニーズがあるが、その他のニーズに応えられなくなる。いつも療育にかかわる人たちが集まって子どもたちの遊び場を提供した。また、それぞれの人ができることを行った。⑤お子さんの作業ができるようになるための学用品の支援物資の調達…活動するためにはお金も物資も必要だが、何もないのでSNSを通じて支援物資として学用品を集めて被災地での活動や被災したお子さんらに提供した。

【支援をする中で感じたこと】普段活動している人や物を知っている私たちだからできることがあり、日々刻々と変化するニーズにどのように応えていくべきかを考えさせられた。しかし、災害の有無に関わらず困り事を持って生活しているちゃんくすの利用者への関わりが疎かになることがあった。どんな脅威に襲われても、事業を継続できる計画づくりBCP(Business continuity planning:事業継続計画)という考え方を普段から考えておくことが必要だと感じた。

【グループディスカッションのテーマ】災害などが起こった時に、1)自分たちにどんなことができるか、2)そのためにどんな準備が必要か、3)普段のクライアントにも関わり続けられるために、どのような準備が必要か。を中心に参加者で語っていきましょうと思います。